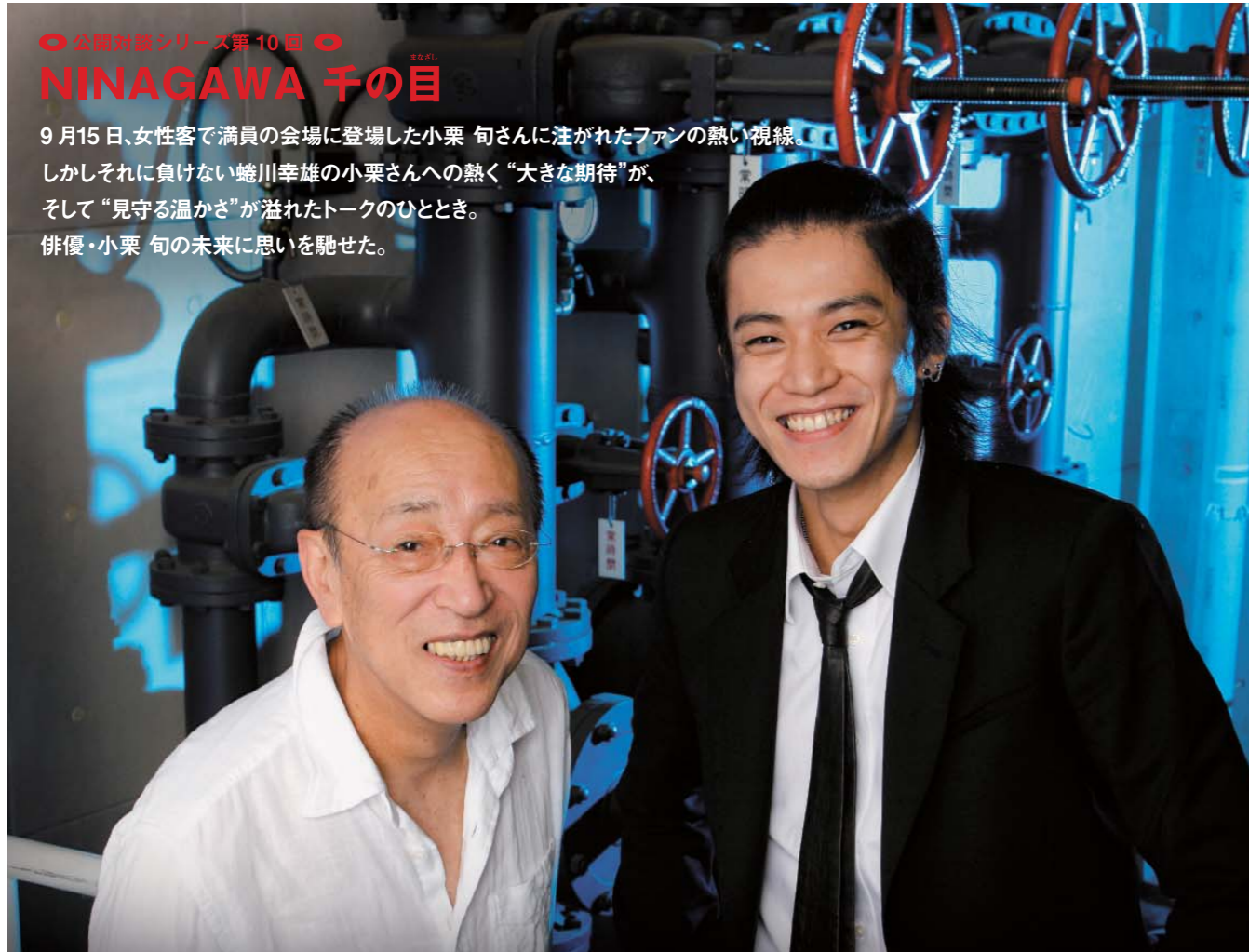


● 公開対談シリーズ第10回 ●

NINAGAWA 千の目

9月15日、女性客で満員の会場に登場した小栗 旬さんに注がれたファンの熱い視線。

しかしそれに負けない蜷川幸雄の小栗さんへの熱く“大きな期待”が、そして“見守る温かさ”が溢れたトークのひとつとき。俳優・小栗 旬の未来に思いを馳せた。



(財) 埼玉県芸術文化振興財団 芸術監督・演出家

俳優

蜷川幸雄×小栗 旬

最初から「ハムレット」をやらせようと思っていた

蜷川 (以降N) 初めて小栗と挨拶をしたのは、シアターコクーン
の楽屋で5〜6年前だったと思うけど。

小栗 (以降O) はい。多分『唐版滝の白糸』だと思いますが。

N 藤原竜也の楽屋の手前の廊下のところに立っていました。ちょっと格好いいなというのと、利口そうだなと思いました。まあ時々間違えるのですが。(笑い) それで小栗と仕事してみようかなと思ったんです。初めて一緒に仕事をした『ハムレット』は何年前?

O 二十歳のときなので、今から約5年前です。

N 『タイタス・アンドロニカス』は?

O 『タイタス・アンドロニカス』は去年です。

N 去年か。『ハムレット』から『タイタス・アンドロニカス』
に行くとなんて全然違うね。僕はこの間彼のフォーティンブラスを見直して、あの時はいいと思ったけど、小栗はまだやれる
ことはたくさんあるなと思いました。それで『タイタス・アンドロ
ニカス』を見るとまだまだこれだけ成長するのかと、思いました
ね。明らかに違うよね。

O そうですね。

N 実は、最初の『ハムレット』では「小栗、ハムレットがで
きるように台詞を覚えておけよな」と言ったんです。藤原君の
ハムレットもいいけれど、ある日突然小栗のハムレットに切り
替えようかと思って。それで小栗のハムレットがよかったです。藤
原君と交互にやりながらどっちがいいか競わせたいなと思いま
した。ところが、そのときもう小栗はしり込みしていた。チキンレ
ースで負けたのです。(笑い)O もう本当に恐れ多いと思っていましたよ。目の前で藤原君
の芝居を見ていて、ちょっと今は「ハムレットをやりたい」なん
て言うてはいけないと本当に思いました。

小栗、おまえはそんなところで生きるな

N 小栗には、最初俺はトップではなくていい、2番手か3
番手、もうちょっと楽なところになりたいところがあった。
僕はそれにいら立っていたんです。「このほかか。そんな楽
なところで生きるんじゃないよ」と思っていました。小栗は格
好がよくて、芝居もうまくて、役をつくるというにはある角度
があるが、その角度のセンスがちょっといい。「いずれはちゃんと主演をやらなきゃな、ちゃんと次の演劇
界を担ってくれなきゃ」と僕は思って、これをやれよ、あれを
やれよと渡した。『タイタス・アンドロニカス』は、イギリスの
ストラットフォード・アポン・エイボンというシェイクスピアが
生まれてそして亡くなった場所にある、ロイヤル・シェイクスピア
シアターという劇場でもやりました。その舞台に立つのは、
以前に真田広之さんが出たことがあります。それ以外の日本
人のカンパニーがそこでやったのは初めてで、とても記念す
べきことなんです。その時小栗はものすごく評判がよく、芝居の
上がりも、演技もとてもよかった。それで多分自信を持った
と思うけれども、その時の心境をちょっと教えてくれないかな。

O そうですね…

N 吹けよ。(笑い)

O あのイギリスの評価は本当に素直にうれしかったです。

N 例えば小栗がカーテンコールへ行くと「ワーアツ」となるわ
けです。劇評でももちろん褒められているから、町を歩いても
そうでね。ほら、もっと言えば。O 『タイタス』のエアロンもさいたまの初めのほうの時は、ま
だちょっと自信がなかったんですが、その後新潟で僕は蜷川
さんに1000本ノックを1回受けたじゃないですか。あの後から
ですね。やっぱりちょっと自信を持つようになったのもそうだし、
自分の中でちょっと気持ち悪かった部分が取り除かれて「あ、
行けるな」という感じがあった。そのままイギリスに乗り込んだ
ので、そういうふう言ってもらえたのは、やっぱり本当に「やっ
てやったぜ!」という感じでしたね。N 芝居はいいものであっても、長い間やっている間に少しず
ついろいろ変質してしまうものなんです。その1000本
ノックについて言うと、けっこう労力とエネルギーがいるもので、
面倒くさかったと思うが、よく耐えていた。O その日は「ばかやろう、この淫売が!」というせりふを50
〜60回言われて。「ばかやろう、この淫売が!」、「はい、だめ。
もう、1回」という…

N ですって。(笑い)

「小栗、次のステップに行くんだぜ」

N この前『お気に召すまま』と一緒に仕事をしていた時には、
三つか四つ他の仕事も抱えて忙しくて大変だったでしょう。

O 正直、本当に大変でした。ゲネプロの日まで雑念がなく板

ほかのジャンルでは用意できない高いハードルを小栗のためには用意したい。(蜷川幸雄)

の上にいられた日なかった。『お気に召すまま』をやっている
のにどこかで違うことを考えているとか、芝居している最中に台
詞は出ているけれども自分の感情は全然それに追いついてい
てないとか、そんなことは僕自身初めてでした。稽古をやっ
ている時は絶対にそれだけに集中していたし、そこしか見えていない。
それに対して応えたいと思ってやっていたけれども、体もついて
来なければ心はもっついて来てなくて。だから稽古をやっ
ている最中も、目の前で3年前からの成宮君の成長みたいなもの
を突きつけられて「ああ、ナリすごいな」というところからどん
どん卑屈になっていくとか、「何やっているんだろ、俺」と
いうことでネガティブな思いまで膨らんできて、つらかったです
ね。N 多分大変だろうとは思いついて見えていたけれど、小栗が
それを人に悟らせないようにこなしただけいいなと僕は思っ
ているわけ。時代に欺いて、とっぽく生きてほしいなと僕は思っ
て。次は、僕たちは『カリギュラ』という芝居をこの劇場ではなく
シアターコクーンでやります。難しくて詩的で格好いいが、狂っ
た王様の話で、これは「小栗、ちょっと次のステップへ行くんだ
ぜ」という感じが僕にはあります。僕自身も余りやっていない室内
劇で、ここのところ脚本を読んでいて、「まいったな、大丈夫かな」
と正直思っているんだよ。O 『お気に召すまま』で1回よくわからない自分と出会う
て、今カリギュラという役を自分のものにしてちゃんと立てるのかと
いうのは、本当にちょっと恐怖ではありますね。でもそうした蜷
川さんがいるとなると、逆に最初の稽古のスタートでは、これだ
たらいけるかもしれない、という状態に自分を作っておかないと
いけないと思いましたよ。N うれしいね。この芝居では、沼の底に沈んだように世界を
見てやりたい、こんなうらやましい世の中は拒絶したいと思っ
ていることを、逆説的に狂ったほうが何を求めていたのか、美しい
ものとは何と考えていたかということができたらいいな、と思っ
ているんだ。O 正直に言ってこの脚本を読んだ時、すぐに理解できる話で
はありませんでした。今現在もカリギュラが考えていたことに対
して、どうアプローチをしていくか、どうふうに持っていく
かは模索中です。でもこの『カリギュラ』という芝居で、一度
自分の24年間の、もうすぐ25年ですけど、その自分自身の集
大成としてやりたいなという思いが生まれています。

N 期待しているよ。(笑い)

profile: 小栗 旬 (おぐり しゅん)
1982年生まれ。T.V.、映画、舞台と幅広く活躍。TBSドラマ「花
より男子」花沢類役でその人気を不動のものにする。映画では
公開中の「キサラギ」(監督:佐藤祐市)、「クロスZERO」(監
督:三池崇史)と主演がつづく。蜷川演出の舞台では「HAMLET」
(2003年)、「お気に召すまま」(04年、07年再演)、「間違いの喜
劇」(06年)、「タイタス・アンドロニカス」(06年)に出演、現在は
「カリギュラ」に出演中。